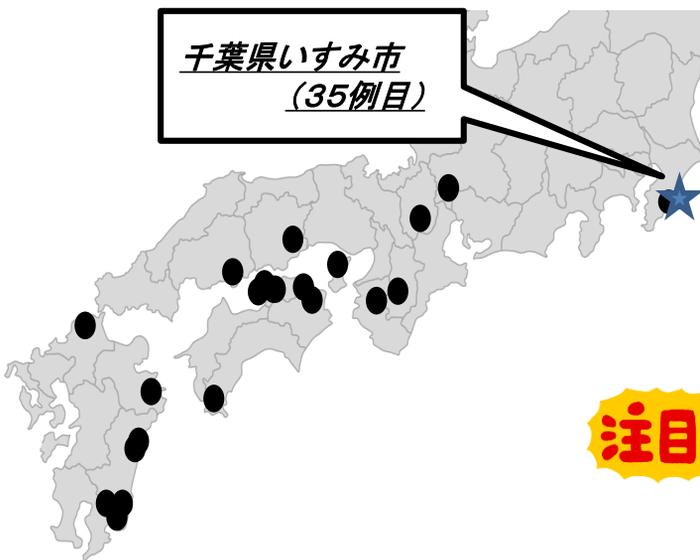


千葉県の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜確認！（国内35例目）

1月11日、千葉県いすみ市の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザ(HPAI H5亜型)の疑似患畜が確認されました。国内35例目の発生となります。引き続き野鳥・野生動物侵入防止や、石灰散布等による消毒などの発生予防対策の徹底をお願いします。

愛玩用の家きん飼育者のみなさまにおかれましても、消毒の励行をお願いします。

千葉県いすみ市
(35例目)



★35例目

【農場の概要】

- ・農場所在地 千葉県いすみ市
- ・飼養状況 採卵鶏 約115万羽

【経緯】

- ・1月10日、死亡羽数増加の通報を受け千葉県が立入検査を実施し、簡易検査で陽性を確認。
- ・1月11日、遺伝子検査の結果H5亜型であり、HPAI疑似患畜と確認。

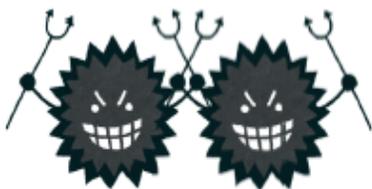
注目!

今シーズンのウイルスは、感染してから死亡するまでの期間が長い傾向があるため、鶏の症状に注意を払う必要があります。特に次の症状に要注意！

- 突然死や元気消失、死亡羽数の増加
- とさかの変色、チアノーゼ(青黒っぽくなる)
- 鶏の顔が腫れる

これまでに14県34事例46農場で発生！
約486万羽の鶏が殺処分！

今シーズンは多量の鳥インフルエンザウイルスがあちこちに！



でも...

農場・人・物・車両の消毒等により、ウイルス量を一定量以下まで減らせば、**感染を防ぐ**ことが可能です。



※農研機構の試験において、 10^5 EID₅₀では鶏が死亡し、 10^4 EID₅₀では死亡しない結果。
(1EID₅₀：発育鶏卵の半分を感染させるウイルス濃度)

徹底的な消毒で、この渡り鳥の飛来シーズンを乗り切れるよう、関係者が連携し、**頑張りましょう！！**

